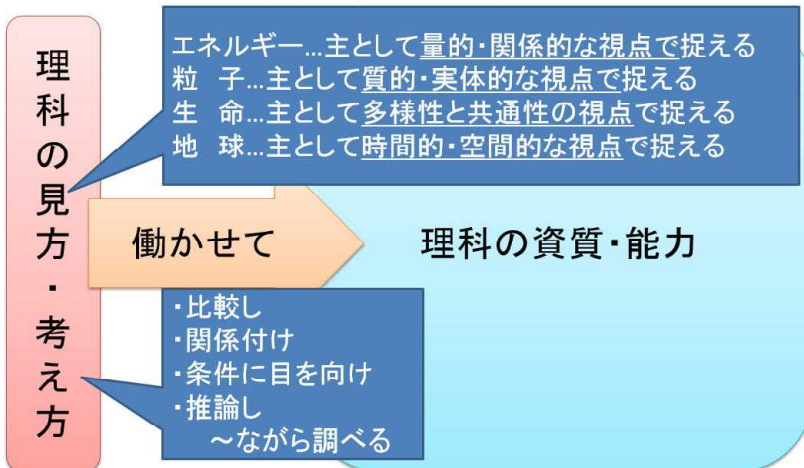


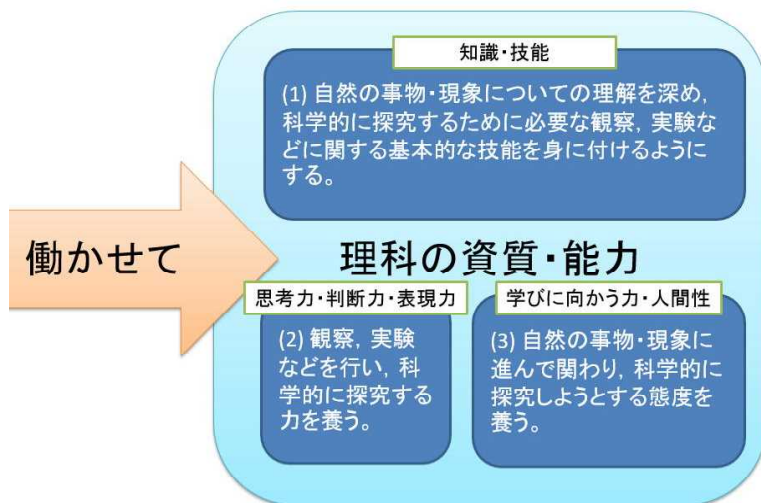
何を学ぶか 理科の見方・考え方



何ができるようになるか 資質・能力を育成 三つの柱

1. 何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)
2. 理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
3. どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

何を学ぶか 理科の見方・考え方



何を学ぶか 理科の見方・考え方

- ・「科学的な見方や考え方」が「理科の見方・考え方」になった。(…教科横断的に変わった…)
- ・「見方」と「考え方」は別。
- ・「見方」と「考え方」に順序性はない。
- ・「見方・考え方」は目標ではなく手段。一方、これまでの「科学的な見方や考え方」は手段ではなく目標だった。
- ・「見方・考え方」と「資質・能力」は別。「見方・考え方」を働かせて「資質・能力」を育む。

何ができるようになるか 資質・能力を育成 三つの柱

●知識・技能

- ・自然事象に対する概念や原理・法則の基本的な理解
- ・科学的探究についての基本的な理解
- ・探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能(安全への配慮, 器具などの操作, 測定の方法, データの記録・処理等)

●思考力・判断力・表現力等

- ・自然事象の中に問題を見いだして見通しをもって課題や仮説を設定する力
- ・計画を立て、観察・実験する力
- ・得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力
- ・探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力

●学びに向かう力・人間性等

- ・自然を敬い、自然事象に進んでかかわる態度
- ・粘り強く挑戦する態度
- ・日常生活との関連、科学することの面白さや有用性の気付き
- ・科学的根拠に基づき判断する態度
- ・小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度